

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700652		
法人名	有限会社ふるさと		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	岡山県浅口郡里庄町里見9144番地		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 21 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・月に1回はイベントを行い、日々の生活に季節感と楽しさを感じていただきたいと思います。
- ・コロナ禍ということもあって、日々の情報や利用者の様子を家族に詳しく伝えるようにしています。
- ・研修を多く実施し、スタッフのスキルを上げるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372700652-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 11 月 18 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

まさに、地域密着型に相応しい施設で、理念の柱となる3つの指針を忠実に熟なしている。家族から高齢の近隣住民の見守りを依頼されて親切に対応し、利用者にもさりげなく「はい。行きまーす。」の言葉かけをして【寄り添う心】を大切にしている姿に遭遇した。すぐに記入できる場所に置いてある連絡ノートを活用することで、職員間の情報共有にも役立てて良好な関係が築かれている。また、介護日誌に日々の記録だけでなく「気づき」を必ず記入することに徹したことで、利用者の様子がよりわかりやすく、些細なことでも新たな発見ができることが【日々感動】に繋がっている。個人面談を実施することで、職員は振り返りと共に目標を掲げ易く、日常の把握がさらに研修にも充実させることで、さらに状況判断を深め、1人1回の外部の研修に出ることで、視野が広がる学びを築いていることが【新たな気持ちで前向きに】介護に繋がっている。専務や管理者をはじめ、職員達の細やかな気遣いが、思いやりのある心となり、里庄の地とともに日本の心を奏でる「ふるさと」とリズムを合わせていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業者内に掲示し朝礼で唱和し、全員が理解共有できるように努めている。	玄関、事務所に掲示し、毎朝の朝礼で唱和している。今期の会社目標と個人目標も掲げ、【寄り添う心】、【日々感動】、【新たな気持ちで前向きに】の理念を心に刻み、日々の介護に取り組んでいる。また年2回の個人面談で、振り返りと反省をすることで今後の業務に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内活動(清掃など)は積極的に参加しているが、コロナ感染の影響にもあり地域との交流はあまりできていない。	町内会とは、回覧板のやり取りや清掃活動に参加している。近隣住民の方が高齢者1名で住んでいて、点灯確認の見守りを行っている。通学中の学生との挨拶が貴重な交流の場となり、道端でケガをした子どもの手当をしたら、後日親御さんが「ありがとうございます」と施設に訪問してくれた。	コロナ禍だからこそ、近隣住民と挨拶を交わす関係をこれからも継続してほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の「サロン活動」の手助けとして「介護保険教室」開催の準備をしてきたがコロナ感染の影響により実際に開催はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により事業所職員のみによる会議の運営内容を文書で報告している。	会議には、民生委員、町内のケアマネ[地域包括兼務]、健康福祉課、家族代表が参加している。現在はコロナということもあり、書面にて開催している。事業所内での様子や利用者情報、「風のたより」の写真を抜粋した物を直接持参し、顔が見える関係を継続している。	今以上に運営推進会議を活用できるように、外部からの意見を聴取してみたいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題点、相談等について、その都度里庄町に助言、指導を頂き現場に反映させている。	里庄町の健康福祉課の方とのやり取りをしていて、わからないことがあれば何でも相談できる関係ができています。また、生活保護課の方との関係も良好で、コロナの報告を行った。窓口は、管理者と事務員が中心となり、電話やメールでのやり取りが多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を定期的で開催し、勉強会を通じて正しい理解に努めている。原則、玄関は夜間早朝以外カギをかけない事を基本としている。現在、身体拘束は行っていない。	3ヶ月に1回開催し、代表・主任・管理者が参加している。身体拘束や虐待の内部・外部の勉強会にも参加している。外部の研修も1人1回は参加できるように配慮している。スピーチロックには注意していて、「はい。行きまーす。」と言葉かけをしている姿を目の当たりにした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止検討委員会」を3か月に一回開催している。また全スタッフを対象に「身体拘束・虐待防止」の研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加等により、研修報告等を通じて理解に努めている。また、社内勉強会でも権利擁護について正しい理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご本人、ご家族に契約内容、重要事項について説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、電話、メール、面会時にもご家族からの要望や、ご意見を聞くようにしている。要望等があった場合は、ユニット会議、リーダー会議で報告、さらに本人・家族とも改善策を話合っている。また、年に一度アンケートを実施している。	面会は窓越しやリモートが基本だが、コロナの状況を見て対面も可能。家族から出た意見は、月1回の会議で報告し、情報を共有している。年1回実施する満足度についてのアンケートでは感謝の言葉を多く頂いた。利用者の意見は、日々の暮らしの中で、話の内容や行動から汲み取り、できるだけ要望を叶えられるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ユニット会議、各委員会の開催及び年1回の個人面談等で意見を聞く機会を設けている。意見箱での要望、提案事項はリーダー会議で検討し、業務や運営に反映している。	専務と管理者〔主任〕が中心となって聞き取り、個人目標シートを参考に面談を実施。有給消化や連休がほしいとの要望や備品の購入の相談にも対応している。新人の場合は、1ヶ月、3ヶ月毎に面談し、何かあればその都度、話を聞く場を設けている。職場の雰囲気もよく、職員はみんな口を揃えて「楽しい」と言っていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や目標達成状況等を年2回自己・主任・管理者が評価し、面談により自己の評価と上司の評価とを照らし合わせ、意見交換しながらすり合わせをするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加し、受講内容は、報告書、勉強会を通じて現場に反映するようにしている。また、社内研修では毎月講師役となる職員が資料作りをする等し、スキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の人を対象に「サロン等」で介護保険の理解を深める「介護保険教室」の開催案内の為、社会福祉協議会等を訪問し、活動の案内を行った。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、ご本人の要望等を把握し、ご本人が要望、不安等を訴えやすいように担当者を決め、職員と一緒に解決する事を基本としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対しては、相談等について話し合いながら共に考え、できる限りの助言や支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒアリングを通じて、本人様、ご家族の要望等を把握し、介護支援専門員を中心にケア担当者とともに話し合い、必要な支援、助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様との会話の時間をできるだけ設け、日常生活の中で洗濯物たたみ等できる事を見出し、一緒に行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回、入居者様の生活の様子等を写真と手紙、「風のたより」(季刊誌)でお知らせし、面会時には生活の様子を報告し、ご家族との話し合いを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までは行事開催の際に地域の方の協力を得たり、地域の方をご招待していたが、ここ数年はコロナ感染の影響もあってその活動が実施できていない。	家族や親戚との面会の継続や業者、訪問美容師、ドクターがコロナ禍で新たな馴染みとなった。散歩途中に新幹線を見るのが馴染みの場所となっている。受診時に自宅へ戻ったり、初詣でのお参りへ行ったりしている。利用者同士が手を繋いで歩く姿も見られ、馴染みの人や場所が施設内で形成された。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が楽しく過ごせるようにテーブルの位置や配席等に配慮し、なるべくフロアーにて過ごしていただけるような声掛けを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居者様には、退居後もお見舞い等に伺っており、その他についてはこちらから連絡するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にあセスメントを行い、本人様の希望などを聞いている。言葉でのコミュニケーションが困難な場合には、日頃の観察や担当者との話し合いで検討し、介護計画に反映させている。	利用者の思いは日々の暮らしの中で、話す内容や行動から汲み取っている。気づきノートを活用し、職員同士で情報が共有できるようにしている。お風呂などの1対1の場面で意見が出やすく、貴重な場となっている。言葉を発しない方には、寄り添う事で、些細なことでも意見が聞けるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ず事前面談をし、入居前の生活環境や社会資源の利用状況の把握に努め、その情報を基にカンファレンスなどを行い、ユニット全体で情報の共有化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議、アセスメント、評価に基づき情報の共有化により介護計画において課題を明確にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは6か月に1回行い、ケアカンファレンス等においてご家族の希望、本人様の希望を把握し検討の上、介護計画を作成している。	ケアプランは基本6ヶ月更新。新しく入居された方は、暫定プランを作成後、1ヶ月、何かあればその都度変更している。作成時には、家族や利用者からの意見も参考にしている。介護日誌に気づきを書くよう変更したら、多くの意見が集まるようになった。また、書き方にも工夫を凝らし、要所を抑えることで、職員の手間が省け、より介護に専念できるようになった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護計画にその日の様子を記入し送りノートの活用、朝礼での発表等により職員間で情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助等可能な限り柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて関係各方面からの協力を頂きながら支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との連携を密にし必要に応じて往診に来て頂いている。受診は原則家族にお願いしているが、対応できない場合はスタッフが対応している。	入居時に、かかりつけ医は選べるが、ほとんどのの方が転医されている。24時間対応で安心できる。他科へは、管理者が連れて行くことが多く、訪問歯科は必要に応じて来てくれる。協力医の往診が月1～2回あり、ドクターとは、何でも言える関係ができていて、ドクターの紹介で施設に入った方もいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が職員の気付きや情報を受診時に医師に相談している。医療機関との調整、処方薬の管理等は看護師と担当職員ともに把握し、気付きノートに書き出し情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との連絡調整は密に行い、状態の把握に努め、早期退院の話し合いも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針に基づき説明し、同意を頂いている。終末期と診断された場合は、ご家族と今後のケアについて話し合いを行い、ユニット全体で取り組んでいる。また、毎年確認を行っている。	看取りは実施していて、数名の看取り経験がある。ドクターから説明をした後で、利用者・家族からの意見も聴取している。看取り介護実施マニュアルに沿って説明し、ご意向確認書にも記入をしている。看取り期の介護記録も作成し、看取りの研修時に振り返りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員に消防署における救急救命講習を受講させている。救急用フェイスシートを作成し、急変時に主治医や消防に的確に情報が伝達できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災を想定した訓練を行う。年一回は消防署員の立ち合いの元、指導助言を頂いている。水害を想定した訓練では実際に入居者の方を2階へ上げる垂直避難も実施している。	年2回昼夜想定で火災訓練と水害対策を実施し、外部の研修にも積極的に参加している。消防署の立ち合いの基、訓練をしていて指導や助言を頂いている。ハザードマップと連絡網は事務所に掲示し、備蓄は、食料と水を3日分、2階の倉庫に保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「尊敬」を基本とし、その方に合せた声掛けを行っている。個別対応を心掛け援助している。	呼称は苗字に「さん」付けだが、反応がいい場合には、下の名前でも「さん」付けで呼ぶ場合もある。法令順守や権利擁護などの接遇研修を年2回実施している。一人ひとりに合った声のトーンやジェスチャーを使い、マスクを外して口元が見えるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を最大限尊重し、一人一人の生活リズムを大切にしながら本人の思いに沿ったケアを支援できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	社内勉強会等で、常々職員側の都合を優先しないよう指導している。本人の意思を尊重し、自己のペースで暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じて、月1回専門職に来てもらい散髪を行っている。その日着る服や朝の洗面、入浴後の整容等本人の意向を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできる事を見出し、その月の誕生者の好みのもや、行事に応じた献立を取り入れる等しながら食事の楽しみが増えるようにしている。食事介助が必要な方が増え、食事は別々に摂っている。	朝は小鉢と汁物を施設で作り、昼と夜がケイタリング。職員も利用者と一緒に食べていて、会話が盛り上がっている食事風景を目の当たりにした。行事食として、お刺身や握り寿司の提供もしている。お盆・テーブル拭き、食器洗いを手伝ってくれる利用者もいる。職員が作る、お酒入りケーキやフレンチトーストが好評。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を提供し水分量もチェックしながら栄養や水分が確保できるように支援している。食事・水分の摂取量の記録、体重測定も行っている。本人の状態に合ったトロミ剤等使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、介助しながら口腔内を観察している。義歯は毎食後洗浄し、隔日で洗浄剤を使用している。口腔ケア用品は週1回薬液に浸し洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーを考えながら、本人の意思を取り入れた声掛けをトイレ誘導を行っている。その方にあった排泄の状態をユニット会議で話し合い、本人様にとって良い排泄パターンの把握に努めている。	排泄チェック表を活用し、適切な時間に誘導している。今の状態をキープできるようにすることを心掛けている。排泄失敗時には羞恥心に配慮し、周りに気づかれないように、さりげなくトイレ誘導をしている。トイレでの立位で用を足す利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の記入とともに便秘につながらないように個々の排泄パターンの把握により毎日、同じ時間帯に排泄の声掛けを行っている。野菜中心の献立等を業者をお願いしたり、その方にあった水分補給をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴をして頂けるようにしているが勤務体制の都合で、本人様の希望通りの入浴が出来ないこともある。	週2～3回の提供。入浴を嫌がる方へは、日にちを変更している。お風呂というワードを使わずに、「なんか見に行ってみる～」と誘導したり、入浴剤を使用したりすることで、色々な気分を味わって頂けるよう工夫している。浴槽に浸かれない方には、シャワー浴や足浴の提供をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中簡単な運動をしたり天気の良い日は外で日光浴をしたり、生活リズムを整え、夜間安眠につながるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬明細を個人ファイルに綴じ込み、薬に関する情報を共有し、主治医の指示のもと服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や楽しみ事等を把握しているが、なかなか役割や気分転換の支援にまでは至っていない。原則、禁酒・禁煙としている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設行事に外出ができるよう心掛けている。天気のいい日には、外気浴を行ったり散歩へ出かけるようにしている。	近隣では、新幹線を見に行くのが、散歩コースとなっている。桜や紅葉を見に行ったり、初詣や善哉を食べに行ったりした。母の日には、敷地内でお弁当を食べることで外出した気分が味わえた。また、敷地内での洗濯物干しやユニット間を自由に往来することも日課となっている。いもやトマト・ラズベリーなどの収穫も出来た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染の影響や、職員の人数の問題から買い物に対応することがとても難しくなっている。単発的に来られる訪問販売などを利用してお金を使うことの楽しみの機会を作っていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、手紙や電話を使用される時はプライバシーに配慮しながら職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアーには季節感を取り入れた花を飾ったり、小物を置いたりしている。温度調節も配慮している。加湿や消毒などで感染症予防を行っている。共用の空間が雑然とならないよう、整理整頓に心掛けている。	天井が広く開放的で、明るい光が差し込むリビングで、利用者もソファで仲良く女子会を楽しんだり、ペットボトルの蓋で数字合わせを真剣にしたりして過ごしていた。季節にあった掲示物の作成を手伝ってくれる利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	横になって休みたい時は居室で寛がれ、フロアーは居間兼食堂となっており、自由に過ごせるように音楽やテレビを流している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・タンスは備え付けとなっているが、本人が使いやすいように配慮し、カレンダー、写真などを飾り希望により自宅より馴染みのものを持ってきて頂くなどして居心地のいい居室づくりを心掛けている。	クリスマスにはルームコンテストを開催したが、利用者にも好評で盛り上がった。仏壇や家族写真の持ち込みや、誕生日カードを壁面に飾っていて、大切な物を居室に置く習慣ができています。テレビや読書を楽しめる自分好みの空間となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室入口には手作りの表札が掲げられ、分かり易いようにしている。できる事を最大限発揮していただけるよう、個々に合った室内の配置や、福祉用具の検討を家族に相談しながら行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
		○	3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
		○	3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700652		
法人名	有限会社ふるさと		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	岡山県浅口郡里庄町里見9144番地		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 21 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・月に1回はイベントを行い、日々の生活に季節感と楽しさを感じていただきたいと思います。
- ・コロナ禍ということもあって、日々の情報や利用者の様子を家族に詳しく伝えるようにしています。
- ・研修を多く実施し、スタッフのスキルを上げるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372700652-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 11 月 18 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

まさに、地域密着型に相応しい施設で、理念の柱となる3つの指針を忠実に熟なしている。家族から高齢の近隣住民の見守りを依頼されて親切に対応し、利用者にもさりげなく「はい。行きまーす。」の言葉かけをして【寄り添う心】を大切にしている姿に遭遇した。すぐに記入できる場所に置いてある連絡ノートを活用することで、職員間の情報共有にも役立てて良好な関係が築かれている。また、介護日誌に日々の記録だけでなく「気づき」を必ず記入することに徹したことで、利用者の様子がよりわかりやすく、些細なことでも新たな発見ができることが【日々感動】に繋がっている。個人面談を実施することで、職員は振り返りと共に目標を掲げ易く、日常の把握がさらに研修にも充実させることで、さらに状況判断を深め、1人1回の外部の研修に出ることで、視野が広がる学びを築いていることが【新たな気持ちで前向きに】介護に繋がっている。専務や管理者をはじめ、職員達の細やかな気遣いが、思いやりのある心となり、里庄の地とともに日本の心を奏でる「ふるさと」とリズムを合わせていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業者内に掲示し朝礼で唱和し、全員が理解共有できるように努めている。	玄関、事務所に掲示し、毎朝の朝礼で唱和している。今期の会社目標と個人目標も掲げ、【寄り添う心】、【日々感動】、【新たな気持ちで前向きに】の理念を心に刻み、日々の介護に取り組んでいる。また年2回の個人面談で、振り返りと反省をすることで今後の業務に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内活動(清掃など)は積極的に参加しているが、コロナ感染の影響にもあり地域との交流はあまりできていない。	町内会とは、回覧板のやり取りや清掃活動に参加している。近隣住民の方が高齢者1名で住んでいて、点灯確認の見守りを行っている。通学中の学生との挨拶が貴重な交流の場となり、道端でケガをした子どもの手当をしたら、後日親御さんが「ありがとうございます」と施設に訪問してくれた。	コロナ禍だからこそ、近隣住民と挨拶を交わす関係をこれからも継続してほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の「サロン活動」の手助けとして「介護保険教室」開催の準備をしてきたがコロナ感染の影響により実際に開催はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により事業所職員のみによる会議の運営内容を文書で報告している。	会議には、民生委員、町内のケアマネ[地域包括兼務]、健康福祉課、家族代表が参加している。現在はコロナということもあり、書面にて開催している。事業所内での様子や利用者情報、「風のたより」の写真を抜粋した物を直接持参し、顔が見える関係を継続している。	今以上に運営推進会議を活用できるように、外部からの意見を聴取してみたいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題点、相談等について、その都度里庄町に助言、指導を頂き現場に反映させている。	里庄町の健康福祉課の方とのやり取りをしていて、わからないことがあれば何でも相談できる関係ができています。また、生活保護課の方との関係も良好で、コロナの報告を行った。窓口は、管理者と事務員が中心となり、電話やメールでのやり取りが多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を定期的に開催し、勉強会を通じて正しい理解に努めている。原則、玄関は夜間早朝以外カギをかけない事を基本としている。現在、身体拘束は行っていない。	3ヶ月に1回開催し、代表・主任・管理者が参加している。身体拘束や虐待の内部・外部の勉強会にも参加している。外部の研修も1人1回は参加できるように配慮している。スピーチロックには注意していて、「はい。行きまーす。」と言葉かけをしている姿を目の当たりにした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止検討委員会」を3か月に一回開催している。また全スタッフを対象に「身体拘束・虐待防止」の研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加等により、研修報告等を通じて理解に努めている。また、社内勉強会でも権利擁護について正しい理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご本人、ご家族に契約内容、重要事項について説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、電話、メール、面会時にもご家族からの要望や、ご意見を聞くようにしている。要望等があった場合は、ユニット会議、リーダー会議で報告、さらに本人・家族とも改善策を話合っている。また、年に一度アンケートを実施している。	面会は窓越しやリモートが基本だが、コロナの状況を見て対面も可能。家族から出た意見は、月1回の会議で報告し、情報を共有している。年1回実施する満足度についてのアンケートでは感謝の言葉を多く頂いた。利用者の意見は、日々の暮らしの中で、話の内容や行動から汲み取り、できるだけ要望を叶えられるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ユニット会議、各委員会の開催及び年2回の個人面談等で意見を聞く機会を設けている。意見箱での要望、提案事項はリーダー会議で検討し、業務や運営に反映している。	専務と管理者〔主任〕が中心となって聞き取り、個人目標シートを参考に面談を実施。有給消化や連休がほしいとの要望や備品の購入の相談にも対応している。新人の場合は、1ヶ月、3ヶ月毎に面談し、何かあればその都度、話を聞く場を設けている。職場の雰囲気もよく、職員はみんな口を揃えて「楽しい」と言っていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や目標達成状況等を年2回自己・主任・管理者が評価し、面談により自己の評価と上司の評価とを照らし合わせ、意見交換しながらすり合わせをするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加し、受講内容は、報告書、勉強会を通じて現場に反映するようにしている。また、社内研修では毎月講師役となる職員が資料作りをする等し、スキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の人を対象に「サロン等」で介護保険の理解を深める「介護保険教室」の開催案内の為、社会福祉協議会等を訪問し、活動の案内を行った。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、ご本人の要望等を把握し、ご本人が要望、不安等を訴えやすいように担当者を決め、職員と一緒に解決する事を基本としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対しては、相談等について話し合いながら共に考え、できる限りの助言や支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒアリングを通じて、本人様、ご家族の要望等を把握し、介護支援専門員を中心にケア担当者とともに話し合い、必要な支援、助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様との会話の時間をできるだけ設け、日常生活の中で洗濯物たたみ等できる事を見出し、一緒に行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回、入居者様の生活の様子等を写真と手紙、「風のたより」(季刊誌)でお知らせし、面会時には生活の様子を報告し、ご家族との話し合いを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までは行事開催の際に地域の方の協力を得たり、地域の方をご招待していたが、ここ数年はコロナ感染の影響もあってその活動が実施できていない。	家族や親戚との面会の継続や業者、訪問美容師、ドクターがコロナ禍で新たな馴染みとなった。散歩途中に新幹線を見るのが馴染みの場所となっている。受診時に自宅へ戻ったり、初詣でのお参りへ行ったりしている。利用者同士が手を繋いで歩く姿も見られ、馴染みの人や場所が施設内で形成された。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が楽しく過ごせるようにテーブルの位置や配席等に配慮し、なるべくフロアーにて過ごしていただけるような声掛けを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居者様には、退居後もお見舞い等に伺っており、その他についてはこちらから連絡するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にあセスメントを行い、本人様の希望などを聞いている。言葉でのコミュニケーションが困難な場合には、日頃の観察や担当者との話し合いで検討し、介護計画に反映させている。	利用者の思いは日々の暮らしの中で、話す内容や行動から汲み取っている。気づきノートを活用し、職員同士で情報が共有できるようにしている。お風呂などの1対1の場面で意見が出やすく、貴重な場となっている。言葉を発しない方には、寄り添う事で、些細なことでも意見が聞けるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ず事前面談をし、入居前の生活環境や社会資源の利用状況の把握に努め、その情報を基にカンファレンスなどを行い、ユニット全体で情報の共有化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議、アセスメント、評価に基づき情報の共有化により介護計画において課題を明確にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは6か月に1回行い、ケアカンファレンス等においてご家族の希望、本人様の希望を把握し検討の上、介護計画を作成している。	ケアプランは基本6ヶ月更新。新しく入居された方は、暫定プランを作成後、1ヶ月、何かあればその都度変更している。作成時には、家族や利用者からの意見も参考にしている。介護日誌に気づきを書くよう変更したら、多くの意見が集まるようになった。また、書き方にも工夫を凝らし、要所を抑えることで、職員の手間が省け、より介護に専念できるようになった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護計画にその日の様子を記入し送りノートの活用、朝礼での発表等により職員間で情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助等可能な限り柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて関係各方面からの協力を頂きながら支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との連携を密にし必要に応じて往診に来て頂いている。受診は原則家族にお願いしているが、対応できない場合はスタッフが対応している。	入居時に、かかりつけ医は選べるが、ほとんどのの方が転医されている。24時間対応で安心できる。他科へは、管理者が連れて行くことが多く、訪問歯科は必要に応じて来てくれる。協力医の往診が月1～2回あり、ドクターとは、何でも言える関係ができていて、ドクターの紹介で施設に入った方もいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が職員の気付きや情報を受診時に医師に相談している。医療機関との調整、処方薬の管理等は看護師と担当職員ともに把握し、気付きノートに書き出し情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との連絡調整は密に行い、状態の把握に努め、早期退院の話し合いも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針に基づき説明し、同意を頂いている。終末期と診断された場合は、ご家族と今後のケアについて話し合いを行い、ユニット全体で取り組んでいる。また、毎年確認を行っている。	看取りは実施していて、数名の看取り経験がある。ドクターから説明をした後で、利用者・家族からの意見も聴取している。看取り介護実施マニュアルに沿って説明し、ご意向確認書にも記入をしている。看取り期の介護記録も作成し、看取りの研修時に振り返りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員に消防署における救急救命講習を受講させている。救急用フェイスシートを作成し、急変時に主治医や消防に的確に情報が伝達できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災を想定した訓練を行う。年一回は消防署員の立ち合いの元、指導助言を頂いている。水害を想定した訓練では実際に入居者の方を2階へ上げる垂直避難も実施している。	年2回昼夜想定で火災訓練と水害対策を実施し、外部の研修にも積極的に参加している。消防署の立ち合いの基、訓練をしていて指導や助言を頂いている。ハザードマップと連絡網は事務所に掲示し、備蓄は、食料と水を3日分、2階の倉庫に保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「尊敬」を基本とし、その方に合せた声掛けを行っている。個別対応を心掛け援助している。	呼称は苗字に「さん」付けだが、反応がいい場合には、下の名前でも「さん」付けで呼ぶ場合もある。法令順守や権利擁護などの接遇研修を年2回実施している。一人ひとりに合った声のトーンやジェスチャーを使い、マスクを外して口元が見えるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を最大限尊重し、一人一人の生活リズムを大切にしながら本人の思いに沿ったケアを支援できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	社内勉強会等で、常々職員側の都合を優先しないよう指導している。本人の意思を尊重し、自己のペースで暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じて、月1回専門職に来てもらい散髪を行っている。その日着る服や朝の洗面、入浴後の整容等本人の意向を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできる事を見出し、その月の誕生者の好みのもや、行事に応じた献立を取り入れる等しながら食事の楽しみが増えるようにしている。食事介助が必要な方が増え、食事は別々に摂っている。	朝は小鉢と汁物を施設で作り、昼と夜がケイタリング。職員も利用者と一緒に食べていて、会話が盛り上がっている食事風景を目の当たりにした。行事食として、お刺身や握り寿司の提供もしている。お盆・テーブル拭き、食器洗いを手伝ってくれる利用者もいる。職員が作る、お酒入りケーキやフレンチトーストが好評。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を提供し水分量もチェックしながら栄養や水分が確保できるように支援している。食事・水分の摂取量の記録、体重測定も行っている。本人の状態に合ったトロミ剤等使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、介助しながら口腔内を観察している。義歯は毎食後洗浄し、隔日で洗浄剤を使用している。口腔ケア用品は週1回薬液に浸し洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーを考えながら、本人の意思を取り入れた声掛けをトイレ誘導を行っている。その方にあった排泄の状態をユニット会議で話し合い、本人様にとって良い排泄パターンの把握に努めている。	排泄チェック表を活用し、適切な時間に誘導している。今の状態をキープできるようにすることを心掛けている。排泄失敗時には羞恥心に配慮し、周りに気づかれないように、さりげなくトイレ誘導をしている。トイレでの立位で用を足す利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の記入とともに便秘につながらないように個々の排泄パターンの把握により毎日、同じ時間帯に排泄の声掛けを行っている。野菜中心の献立等を業者をお願いしたり、その方にあった水分補給をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴をして頂けるようにしているが勤務体制の都合で、本人様の希望通りの入浴が出来ないこともある。	週2～3回の提供。入浴を嫌がる方へは、日にちを変更している。お風呂というワードを使わずに、「なんか見に行ってみる～」と誘導したり、入浴剤を使用したりすることで、色々な気分を味わって頂けるよう工夫している。浴槽に浸かれない方には、シャワー浴や足浴の提供をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中簡単な運動をしたり天気の良い日は外で日光浴をしたり、生活リズムを整え、夜間安眠につながるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬明細を個人ファイルに綴じ込み、薬に関する情報を共有し、主治医の指示のもと服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や楽しみ事等を把握しているが、なかなか役割や気分転換の支援にまでは至っていない。原則、禁酒・禁煙としている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設行事に外出ができるよう心掛けている。天気のいい日には、外気浴を行ったり散歩へ出かけるようにしている。	近隣では、新幹線を見に行くのが、散歩コースとなっている。桜や紅葉を見に行ったり、初詣や善哉を食べに行ったりした。母の日には、敷地内でお弁当を食べることで外出した気分が味わえた。また、敷地内での洗濯物干しやユニット間を自由に往来することも日課となっている。いもやトマト・ラズベリーなどの収穫も出来た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染の影響や、職員の人数の問題から買い物に対応することがとても難しくなっている。単発的に来られる訪問販売などを利用してお金を使うことの楽しみの機会を作っていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、手紙や電話を使用される時はプライバシーに配慮しながら職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアーには季節感を取り入れた花を飾ったり、小物を置いたりしている。温度調節も配慮している。加湿や消毒などで感染症予防を行っている。共用の空間が雑然とならないよう、整理整頓に心掛けている。	天井が広く開放的で、明るい光が差し込むリビングで、利用者もソファで仲良く女子会を楽しんだり、ペットボトルの蓋で数字合わせを真剣にしたりして過ごしていた。季節にあった掲示物の作成を手伝ってくれる利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	横になって休みたい時は居室で寛がれ、フロアーは居間兼食堂となっており、自由に過ごせるように音楽やテレビを流している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・タンスは備え付けとなっているが、本人が使いやすいように配慮し、カレンダー、写真などを飾り希望により自宅より馴染みのものを持ってきて頂くなどして居心地のいい居室づくりを心掛けている。	クリスマスにはルームコンテストを開催したが、利用者にも好評で盛り上がった。仏壇や家族写真の持ち込みや、誕生日カードを壁面に飾っていて、大切な物を居室に置く習慣ができています。テレビや読書を楽しめる自分好みの空間となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室入口には手作りの表札が掲げられ、分かり易いようにしている。できる事を最大限発揮していただけるよう、個々に合った室内の配置や、福祉用具の検討を家族に相談しながら行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
		○	3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
		○	3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				